
人間界の郷(くらし)

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人間界の郷くわい

【Nコード】

N5942I

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

闇幻想郷と幻想郷と植物界の住民が人間界に住み着くところなるという、面白くてカートゥーン風味のある。東方コメディ小説です。

プロローグ F4チームに火の用心(前書き)

唐突に新連載が登場。結構面白みがありますので読んでみてね、あと笑いすぎて腹筋を壊しても責任は問いませんのでご注意ください。

プロローグ F4チームに火の用心

ある日、博霊の御賽銭が消えうせていた。

「ちょっと、レミリアでしょー御賽銭盗んだのは？」

「わたし、じゃありませんよ、霊夢いいところに来た。最近そういうことが多く起こっているんですよ。」

「それがどうかしたの？」

「妹様が、F4チーム作ってしまいました。」

閻幻想郷所属の赤紫色のビーバー トウシーの解説コーナー

F4チームとは名前のスペルの頭文字にFが付いていることでチームが組めること。

全員が、加虐なキャラであること。

そして、法則が幾つかあることである。

チームに所属している者

フランドール・スカーレット 頭文字にFが付く。加虐愛。

フリッピー 頭文字にFが付く。戦闘神経症が原因で加虐愛に。

フレイキー 頭文字にFが付く。恐怖が最高潮に達すると狂気に満たされる。

フロッグマン 頭文字にFが付く。ブラックホールを多彩に操り、周りを破壊する。

解説終演

「トウダイグサ・スカーレット大佐、いい加減、萃香にあげた酒の代金渡しなさい。」

「やべっ、貧乏巫女だ逃げろー」

「待ちなさい、あんだだって鬼畜キャラじゃない、ある意味。」

「兄さん、払ったほうがいいよ。従妹からの立場的に」

F4チームは、楽しく輝夜^{ニート}を盗撮していた。

その後、フロッグマンがブラックホールを利用しスペカにした。

「黒穴　ブラックホールキャノン」

結果、ニューヨークにブラックホールキャノンが命中。

翌日、魔理沙とキツズウインはテレビを見た。

「昨日の夜、ニューヨークに奇妙で謎の多い黒い物体が当たり、ニューヨークが壊滅状態になりました。」

魔理沙は、びっくりした。

「フロッグマンの仕業だろこれ！。フラン何で止めなかったんだ。」

闇幻想郷所属の黄色のウサギ　カドルスの解説コーナー

フロッグマンの能力は、ブラックホールを自由に操る程度の能力であるため、何をしでかすか、誰にもわからない。つまりunknownである。

解説終演

「フロッグマン、あんた馬鹿なことしないでよー」

「ごめんよフランちゃん」

「フリッピーとフレイキーもなんか言ってるよ。同じ閻魔郷出身者でしょ。」

「ブラックホールタイプの弾幕を使うな。特に人間界では。」

フレイキーも怒った表情をしていた。

「ごめんなしえい。」

「こいつ、本当に扱いづらいキャラだね。」

フランがあきれるのはしょうがない。

フロッグマンは？と同じくらいだから。

フリッピーとフレイキーは二人楽しくコーヒーを飲んでた。

「代金支払えー」

「やなことー払うなら、弾幕で払うぜ」

「禁忌 平和玉」

「夢想封印」

「パット長に言いつけるぞ。」

「やれるもんならしてみれば？」

ブローグ F4チームに火の用心（後書き）

次回は、神様が新型に
です。お楽しみに今回、壊滅されたニューヨークは次の日復活して
います。しかし
ニューヨークの残機が減りました。

第一話 神様が新型に感染しちゃった！（前書き）

あり得ないと思った方や、その時点で爆笑している方、ツッコミ型感想受け付けています。どんどんツッコミを入れてください。宜しくお願いいたします。

第一話 神様が新型に感染しちゃった！

セルインジー・キリストは、人間界をちょこまかと歩いた3日後。

八坂 神奈子になぜか、苦しそうな顔をしていた。

「もしかして、人間界に流行っている新型じゃー。」

早苗がそういった。

諏訪子は？といった感じになっていた。

セルインジー・キリストは案の定、寝込んでいた。

タカトウダイ中佐は、ナズーリンを探しに行っていた。

「これだから、ネズ公は、困る。」

「わー」

「誰か、マンホールから落ちたぞ。」

「紫の仕業じゃなくて？」

「ヤマザナドウか。」

「タカトウダイ中佐は、知っていますか神のランクの者達が新型コロナウイルスに感染したのを。」

「知らなかった。」

「貴方達も、気を付けてくださいね。」

「マンホールから落下したって。」

「大丈夫です、また小町の悪戯ですから。懲らしめに行かないと。」

「インフルエンザの菌なんか、ブラックホールで吸い込んでやんぜ。」

「馬鹿なことしないでよ、フロッグマン、最近あなたの種族が判明したのよ。」

フランが言う前に

フレイキーが言った。

「フロッグマンの種族は、ブラックホールなんです。つまり天人はずれ」

「黒穴」

「やめようね」

却下された。

カドルスは、杓陀のほうに向かった。

「いやーやっぱり神でも油断大敵だなこれは。厄払いして正解だったよ。」

「何が？」

「新型インフルエンザだよ。」

「ああー」

「厄神には申し訳ないと思うけど。」

「ナズーリンは向こうで猫と弾幕戦をしています。」

「東方版の猫娘かー」

第一話 神様が新型に感染しちゃった！（後書き）

今回は、まさかまさかの百鬼夜行といってもこちら側のオリキャラも実は百鬼夜行になりやすいんですよ。人に非らぬ者が結構います。ハピツリもだろーとかくツツコミ感想お待ちしております。

第二話 百鬼夜行 + (前書き)

ギャグ感が強めです。

第二話 百鬼夜行+

カドルスは、いつものように、バナナジュースを飲んでいた。

ラッテイとランピーは紙を配布していた。

配布された紙の中身はこうだ。

「百鬼夜行祭開催決定」

しかも本日だという。

しかしよく見ると

「7が8を咬み殺したら15になったと書かれている。」

どういふことなのか？

百鬼夜行祭少し怪しい一面もある。

そして夜になった。

t o b e c o n t i n u e

第二話 百鬼夜行 + (後書き)

次回爆笑の渦とカートゥン風味のあるギャグが登場します。

第三話 百鬼夜行祭開幕一日目（前書き）

遅れてすみません。スランプ状態だったので待望の第三話になります。

第三話 百鬼夜行祭開幕一日目

百鬼夜行祭当日。

カドルス達がやってきた。

今回の祭りは、トラブルメーカーが存在している。

しかしながらみんなは楽しそうに盛り上がっていた。

F4チームまで来てしまった。

うちはドルレインが、暴走族のごとくやってきた。

ギグルスとトウーシーとランピーは、キッズウィンが、言うある場所
所に連れられた。

キモエリザベスは、飴玉を食べていた。

「今日も、盛り上がってるね。」

そんなことより、池の中から、誰かがのぞいている。

次回に続く

第三話 百鬼夜行祭開幕一日目（後書き）

二日目ですが、いよいよ本番です。

第四話

百鬼夜行祭二日目（前書き）

これ以上、スランプになりやすいといけないので未完の状態です。
完結
します。

第四話

百鬼夜行祭二日目

池の中から、フロッグマンが出てきた。

「キッツウインは何処だー。」

どろぢらどろぢでもいい事を言い始めていた。

キモエリザベスが、よだれを垂らしていた。

「放射能だー逃げろー。」

キリマンジャロとサンバラスは、遊んでいた。

盛り上がりのさだか、月にタンジエントアークが現れた。

レミリアと咲夜は、綺麗と見とれていた。

謝罪会見

主催 トウダイグサ・スカーレット大佐とサイエレンスとうちはドルレイン

「此の度、人間界の郷をご覧いただきありがとうございます。」

「たび重なる著者のスランプにより、人間界の郷は、これで完結とします。」

「申し訳ございませんが、この人間界の郷は、未完のままの完結になります。」

「ご迷惑をおかけしてすみませんでした。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5942i/>

人間界の郷(くらし)

2010年11月12日21時58分発行